

「お父さん・お母さん先生」の活動を通して

寒河江　よう子

「お父さん・お母さん先生」誕生

「お父さん・お母さん先生」誕生のきっかけは、海浜公園の遠足の計画案検討の時でした。担任から「海辺で思い切り遊ばせたい」「服が汚れることを気にしないで済むように、水着に着替えたら」という提案があり「着替えを援助するのに時間がかかって待たしてしまうことになる」と話し合い、その時、園長の発案で保護者に協力を求めることにしま

した。

当日は着替えもスムーズに行われ、潮の引いた海岸のかなり遠くまで「お父さん・お母さん先生」に付き添われ、探検することができました。保護者に感想を伺いました。

「話を聞いた時は、幼稚園の先生がやるべきことをなぜ保護者に依頼するのか疑問に思った。実際に行ってみると、先生たちの仕事の大変さが良くわかった。水着に着替えて遊ぶことは良い経験だが、

先生たちだけでは無理だとわかった。親が付いて行くことで経験が広がるなら、良い計画だと思った」は、「お父さん先生」の感想です。

「お母さん先生」からは、「参観日に遊びの様子を観る時とは違って、子どもたちが親の存在を気にせず、のびのびと遊んでいて、普段の姿が観られたと思った。また参加したいと思った」との感想をいただきました。

翌年は前年度の経験から、年間計画を立てる際に「お父さん・お母さん先生」について、予め保護者の希望を聞き、年間行事に位置づけることにしました。保護者に手伝いを依頼するということの意味について検討し、教師の手伝いをする、子どもたちの経験の幅を広げることだけでなく、保護者の子どもの実態の理解、保護者同士のかかわりも大切な観点になると確認しました。

「お父さん・お母さん先生」を募集するに当たってはいくつかの留意点があります。「手伝いたくとも

できない」「みんながやらなければいけないのか」という思いをもたないように、と考えています。登降園は徒歩、保護者の引率が条件である幼稚園ですが、日中は仕事をしている保護者もいます。介護をしている家庭もあるでしょう。ありがたいことに下に弟妹のいる家庭が多い幼稚園です。手伝いができないことが気持ちの負担にならないように願いました。

募集をした際、二歳児の弟のいる保護者から相談がありました。「この中で下の子がいても手伝いが可能なものはどれでしょうか」。幼稚園としてはこう答えしました。「皆さんに必ずやっていただくということではなく、できる範囲で、とお願ひいたします。下のお子さんの時にも、お手伝いいたたくこともできますよ」。保護者はこうおっしゃいました。「下の子の時には是非やりたいと思います。上の子どもの時の幼稚園生活の中で、何かお手伝いできることがあればと思います。子どもにとつては

上も下もないので、幼稚園の中で母親が何かにかかわっている姿を見せたいと思うのです」。

このお申し出を聞いた時、単に幼稚園の活動を手伝うということではなく、「できることから」「我が子のために」という思いに至っていただいたことで、活動のねらいの大きな部分が達成されたと思えました。

学区域が指定されている公立幼稚園にとって、地域でのかかわりも大切な要素となります。在園児の保護者同士のかかわりが深まることも大切であり、また、入園前の保護者とのかわりも大事にしたいと捉えています。未就園児対象に遊びの場を提供している活動の中で、在園児の保護者にかかわっていただければ、相互の交流の場となり、未就園児保護者にとって安心感が得られるのではないかと、未就園児の活動も項目に入れました。

保護者と相談し、未就園児の活動に参加していただきました。未就園児の保護者と水遊びの準備や片

づけをし、下の子を一緒に遊ばせました。この保護者はその後PTA活動にも積極的に参加し、委員を引き受け、幼稚園を借りてバレーボールクラブを立ち上げました。

活動から広がり

年間を通して「お父さん・お母さん先生」を募集しましたが、近隣の公園に行く活動は「近くである」「時間的に短い」という理由で項目に入れませんでした。当日、ある行動に気づきました。見送りのお母さんたち数人が、ずっと一緒に歩いてきます。横断歩道では子どもたちの誘導をしてくれます。信号がなくなるころ「いつてらっしゃい」と声をかけ離れていきました。帰りの道でも横断歩道に立ち、幼稚園まで付いてきてくれました。お礼を言うところ「いえ、お使いに行くついでがあつたものですか」との答えです。



このことから、「お母さん先生」を経験したこと
で、保護者の方がどの部分を手伝えれば良いかがわ
かったのではないかと、近くであつても時間が短くと
も、希望があるなしはともかく、手伝いを依頼すべ
きではないかと話し合いました。

次の近隣の公園に遊びに行く活動に改めて声をか
けました。何人かが参加し、その中にお父さんもい
ました。黙って静かに子どもたちの活動を見守って
いましたが、雲梯や鉄棒での援助の仕方は学ぶ点の
多いものでした。若い担任は声のかけ方、タイミン
グに感心していました。子どもにとつて、様々な立
場の方にかかわっていただくことの大切さを感じま
した。

バス遠足の見送り・出迎えの保護者の行動もあり
がたいものでした。バスの乗車の際、入り口付近に
立ち、他の車から子どもたちを守ってくださいいま
す。芋ほり遠足の時はバスを待ち構え、荷物入れか
ら芋袋を運び出してくれます。このことも実際に幼

稚園の活動に参加し、どこを手伝えれば良いかがわか
り、特に確認することもなく、素早く、タイミン
グよくかかわっていただけなのだと思えました。

手伝いの項目には「裁縫」も入れました。希望者
の中に折に触れ、「何かやることありませんか」と
聞いてくださる方がいました。三歳児のままごと
のスカートを新しくしたいと思っていたのでお願いす
ると、早速かわいいうスカートを作ってくださいまし
た。お礼を言うと、「我が家は男の子ばかりで、女
子の洋服を作るのが夢でした。私の方こそ良い経験
ができました」と言っていました。

保護者同士の活動へ

例年、野菜を育て収穫の喜びを味わうことができ
るように計画しています。味噌汁やカレー作りにも
お手伝いをお願いします。手を動かしながらも話の
花は咲きます。韓国で生まれ育った保護者が、韓国
料理についていろいろ教えていただきました。その

うちに保護者同士、料理のクラブができました。各家庭を会場にそれぞれ得意な料理を教え合う交流が続きました。

併設されている小学校には「お茶室」があります。日本文化の伝承を園の特色として掲げていますので「お茶室」を活用し「お茶」を活動に入れようと計画していました。そこで、手伝いの項目に「茶道」を入れました。保護者から「お母さんではなく、おばあちゃんでもいいですか」とのお問い合わせがあり、喜んでお願いました。いつもきりりとした着物姿でお茶を点ててくださる「お茶の先生」は、お孫さんが修了して数年が経ちますが、いまでもお茶の先生として活躍していただいています。「お茶会」の手伝いの希望者は、お茶の経験のある方、初めての方と様々ですが、皆さんがお茶の楽しさを感じ取っている様子でした。自分たちもお茶をやってみたいという希望から、「お茶室」を借りて月一回の活動が始まりました。子育ての忙しい時

期、月一回、二時間の活動であっても、この時間を生み出すために、どれだけ家事を工夫していることだろうと、楽しみに稽古される姿に頭が下がりました。弟や妹が続いて入園することで、保護者から保護者へ「お茶会」が脈々とつながっています。

きっかけは、子どもたちの安全確保、経験の幅を広げることでした。手伝いという形態では、それまでも折に触れ協力を仰ぎましたが、「お父さん・お母さん先生」として年間行事に位置づけたことで、「手伝っていたくこと」の意義について考え、共通理解を深めることができました。何より保護者の協力の姿勢、子どもたちへの思いに学ぶことの多い活動となりました。地域にある幼稚園として、保護者、地域と共につくる幼稚園を目指し、保護者と共に活動を充実させていきたいと思っています。

(中央区立豊海幼稚園)